そふ雲のひとへに足らす春の月　永年
ゆるむ間のありて久しき余寒哉　良可
海苔好む人の淡さもしられけり　甘志
莨吸ふ藁火に梅のうるみけり　得賀
ひとさかり過て静な梅見かな　如白
よき日のみ拾ひよみしてはつ暦　祐之
白魚やはねる力も網のうへ　世員
梅をれはのそりと出すや馬の顔　素渕
家はみな梅にかくれて里ふかし　佳節
元日や住よきこゝに年ふるく　龜稗
ふしくれもいつ雪をれて柳かな　宗普
明るみのさす空窓や初からす　如泉
見聞ものむつまぬはなし花の春　巨椎
田をへたて畑を隔て梅白し　芳泉
元日も曠に褶たく在処かな　研月
人行は鶴たつ島の恵方かな　古友
窓先に流れももちてさし柳　楽山
にきやかな日の暮やうや松かさり　岱々
黄鳥や朝とゆふへとふたところ　處山
梅か香や里も小むらも人通り　由地
如月や野は一はいに草のいろ　南交
養父入の伏をするや隣の子　梅雅
なつかしき一夜ふた夜やかへる雁　鳩園
行儀よく幹をはなれて落椿　無名
鶯によりそふ柱はなれけり　閑水
書のしや囉ひものとて海苔五枚　太珉
里の花夜はしつまりて犬の声　梅處
行はゆく先に広かるかすみかな　芳一
巣の鳥の親子そろへは暮にけり　桃宜
畑うちのいそくともなき手ふり哉　霜眉
東風ふくや舟からもとるわすれ物　湖崖
黄鳥やおもひもうすぬ日の初音　槇舎
もてはやす四五りんの間や梅に雪　大鵬
山ふきに口そゝき行なかれかな　雪年
雲雀なく空のうつるや川手水　青柿
二つさくひとつはのひて福寿草　山碍
まつうちの日数もたのし梅の花　きく雄
袖をふく風は冷たしはるの月　可嘯

乙鳥に逢ふもたよりの野道哉　花海
曲る瀬にしつんてはうく椿かな　三交
江にならふ柳も雨のすかた哉　為山
黄鳥や鳴ては雪のふりきゆる　山子

庚申春　鴎波書 印